

平凡な人間が 集まって 非凡な結果を残す



和歌山トヨタ自動車株式会社
代表取締役会長 兼 CEO

小川 至弘

はじめに

弊社の創業は昭和17年に遡り、戦時中の自動車配給会社の発足が創業となります。以来70余年、和歌山県下全域においてトヨタ車・レクサス車・フォルクスワーゲン車の拡販に努めてまいり、数多のお客様や社員に支えていただけてまいりました。

全国各都道府県にある「〇〇（都道府県名）トヨタ」という販売店は「トヨタ」「トヨペット」「カローラ」「ネッツ」と4チャンネルあるトヨタの販売店の中で「トヨタ店」といわれるチャンネルで、戦前～戦後にかけて、各都道府県で設立された最初のトヨタディーラーです。クラウンやプリウス・アクアといった高額車・ハイブリッド車を中心に、4WDのランドクルーザーや商用車を扱っていることが特徴です。

70年以上の歴史の中には幾度かの経営危機があり、今日に至るわけですが、特にこの7年間は“第二の創業”という位置づけで、ゼロからの風土改革に取り組みました。その成果としまして、平成25年、平成27年にメーカーであるトヨタ自動車より優秀店表彰を受賞することができました。

特に平成25年には、販売台数の県内シェアが、トヨタお膝元である愛知県をも上回り、“全国トヨタ店”で1位のシェアを獲得することができました。これもひとえに、社員一人一人が成長し、本部と店舗が連携し一枚岩となって本気の努力をしてくれた賜物であると大変うれしく思っています。

人財育成 因縁果 第2の習慣

自動車ディーラーの経営は新車の鮮度やヒット車種によって業績が大きく左右されるのですが、車種や景気に左右されることのない経営基盤の強化を図ってまいりました。強化の根本、それは“人財育成と組織力だ”という信念で、この7年間全力でそこに注力してきました。

私は、田辺市で生まれ育ち、高校を卒業し和歌山トヨタにメカニックとして入社しました。

管理部門を経て31歳で取締役就任しましたが、当時の社長であった故・武田憲二会長との“縁”で今の自分があると感じています。

もともと無鉄砲でやんちゃだった私が、武田会長と共に全身全力で仕事に打ち込むなかで、自分を律し、新しい考え方・習慣を身につけることができました。ご縁を活かし「習慣は第二の天性をなす」という人生を地で歩むことができたと感じています。自分の人生を振り返り、縁を生かすこと、軸をブラさないこと、失敗の経験を積むこと、諦めないことの大切さを実感しています。

経営者として、後進に何が残せるのか。

「お金を残すは三流、事業を残すは二流、人を残すは一流」という言葉があるように、“人財”をどれだけ残せるかが自分の使命だと考えています。

弊社の経営理念には「経済道德合一」を掲げています。

二宮尊徳翁の「道德なき経済は罪悪である。経済なき道德は寝言である」や、“日本資本主義の父”と言われる渋沢栄一の「論語と算盤」にもその両立の大切さが書かれています。

昨今の企業の様々な不祥事をみるにつけ、その重要性を感じずにはいられません。その理念の実践のために、論語や月刊誌「致知」、歴史本や新聞の記事を資料にした月一回の道德勉強会を38年続けています。

私自身の経験から、縁あって当社に入社された方には仕事を通じて自分を高め、幸せな人生を送って欲しい、その想いで、人として根っこの部分“誠実、謙虚、感謝、素直、礼儀、克己心、継続”といったことを様々な角度から伝え、本人の“気づき”を促すとともに仕事を通じて人間力を養うことを主眼に置いています。



マナー研修

また、女性スタッフ位置づけも180度変えました。“女性スタッフも分け隔てなく活躍できるチャンスを”ということでグループ各社で女性チームを編成し、社内報の作成やCS向上をテーマに取り組んでもらっています。

それに伴い、外部講師の方をお招きし、全女性スタッフを対象にしたマナー研修を5年以上続けています。

講師の先生にお任せしっぱなしにするのではなく、私自身の言葉で想いを伝えることが大事と考え、月に1度のマナー教室には必ず出席し、語りかける時間を作っています。

今では、女性の営業スタッフも増え始めましたし、グループ会社であるトヨタレンタリース和歌山では女性店長が3名誕生しました。

一糸乱れぬ統一性 一枚岩

もうひとつのこだわりは組織力です。

当社の社訓はトヨタ自動車の創業者、豊田喜一郎氏のお言葉より引用させていただいています。

昭和13年11月3日、拳母工場（本社工場）の竣工式において、喜一郎氏が神前に捧げられた言葉が以下の一文です。

「先考（ちち）之を辞に遺し、吾等之を實踐し自動車工業の生誕を看る。

偶々皇国未曾有の非常時に際会し、吾等の使命日に重く、茲（ここ）に国策に順応して工

場を拳母地方に設け、一大自動車工業を確立せんとす。

又、目を平時に転ぜよ、国家経済の動脈たり。

人は任務に生くべし、

小我を捨てて大我につけ、

任務を怠りて己を滅し、

任務を全ふして己を発揚す、

各自受持ちの任務に満腔の誠を致せ、

集まりて偉大の力を生ず、

連鎖も一環の集まりなり、

一個人の不注意を以って、

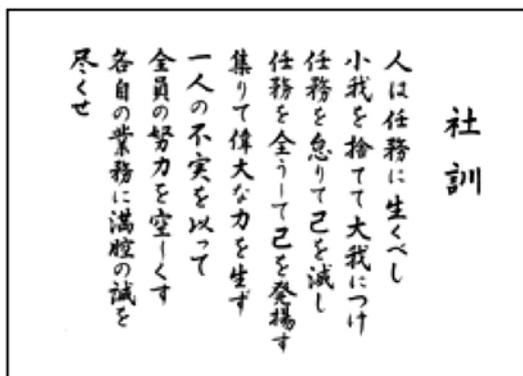
全工場の努力を空しうす、

一本のピンも其の働きは国家に繋(つな)がる、

各自の業務に無駄あるべからず」

私が30年ほど前にこの一文に感銘を受け、アレンジして作ったものが弊社の社訓です(写真)。

「平凡な人間が集まって、非凡な結果を残す」全員が目的を共有し、一つの目標を目指すとき、ものすごい力が発揮されます。



このたびメーカー表彰をいただけたのも、社員一人一人が成長してきたこと、本部と店舗の信頼関係、組織の結束力が強まっている証だと感じています。

マンネリ打破と地域社会との関わり

この7年間、人財育成と組織力強化を軸に風土改革に取り組んでまいりましたが、スタッフのモチベーションを継続するためにマンネリ打破にも腐心してきました。

旧店舗のリフレッシュといったハード的な見直しを進めると同時に、グループ会社間の連携・絆づくりを目的に飲み会でのコミュニケーションを図ったり、エンジニアのモチベーションアップのための自前チームでの“86”レースへの参戦、最近ではメカニックを対象にしたマナー研修も始めたりといったソフト的なことにより注力してきました。

そして古座川町では、“滝の杯”にある民宿跡を購入し、社員の保養所にすると同時に、近隣の耕作放棄地を借り受け、社員やその家族に農業体験をしてもらっています。

“自然に触れ、親しむ場を、ぜひとも社員やその家族につくりたい”という思いが10年以上前からありました。

私自身、田辺市に生まれ育ち、少年期に自然の中で育ったことが一番のきっかけです。海に川に山に遊びまわり、そして近所のおじさんや



古座川田植え



稲刈り

お兄さんからウナギの取り方や鳥の捕まえ方を教えてもらったこと、そこで動植物の生態を学び、いろいろな経験をしたことで、生きる知恵を学び、その後の仕事・人生において大変役立ちました。

現代の都会に生まれ育った方はそういった経験が少なくなっています。

自然との触れ合いによって人間性豊かになり、知恵もつき仕事にも好影響を及ぼし、社員やその家族の心豊かな人生にきつとつながる、私はそう信じています。

また古座川町の一斉清掃や秋祭りといったイベントにも積極的にグループ社員が参画し、地域の方との交流を図っています。

社内にも“兼農グループ”という組織をつくり、グループ全体を巻き込み、古座川での事業運営に携わっています。

主の仕事以外の仕事で、色々な役割を通じて学ぶことがスタッフの自主自立 独立自尊に繋がっています。またその経験が本業にもプラスの効果をもたらしていますし、日々の仕事のマナー防止にもつながっています。

“真面目に働く社員の幸せ”

これが私の思いです。引き続きこの信念を持って、人づくり組織づくりを通じ、地域社会へ貢献をしていきます。

(多くのディーラーがしのぎを削る自動車販売業界。都道府県別に毎月、熾烈なシェア争いが展開されていますが、基本的には、各社のシェアは、それぞれが扱う車種の人気度合いで大勢が決するものと思われがちですが、和歌山県にはそんな定説を覆して高いシェアを維持するディーラーがあります。その秘訣を寄稿して頂きました。(一財)和歌山社会経済研究所 副理事長 堀切久壽)